



コンテナを扱うプロとして 役割を果たし新たな取組みにも意欲

代表取締役社長
飯田 健司



コンテナの販売・レンタル・検査・修理などを手掛け、日本と海外を結ぶ輸送業務を陰で支えている『セントラルコーポレーション』。様々なサイズのコンテナを扱っており、修理の技術力の高さなどもあり周囲からの信頼は厚い。そんな同社を本日はタレントの松尾伴内氏が訪問し、飯田社長にインタビューを行った。

——『セントラルコーポレーション』さんは、輸送コンテナに関する仕事しておられるそうですね。飯田社長はずっとこの仕事をしてこられたのですか。

当社は私の父が立ち上げましたが、私自身は大学卒業後に不動産会社の営業マンになりました。不動産という大きな商品を扱うことで、お客様の人生の一部になれることに、大きなやり甲斐を感じていました。そして7年ほど勤めた後、父が高齢になってきたこともあって家業に入ったんです。

——全くの異業種ですよ。

はい。ずっと人とコミュニケーションを取る仕事を続けてきましたので、黙々とコンテナに向き合う時間が多いこの仕事に慣れるまでは大変でした。具体的に

は、海外からの輸入品を入れたコンテナが日本に上がってきた際に、検査をする業務が多いです。ダメージや汚れなどがあれば、当社で修理をしてからまた別のお客様にレンタルするんですよ。コンテナの販売なども手掛けています。

——専門的なお仕事ですよね。コンテナは毎回ダメージがあるものなのですか。

基本的には頑丈に作られていますが、フォークリフトで運ぶ時などに亀裂が入ってしまうことなどがあるんです。また、雨ざらしなので錆びて劣化してくることもあります。検査から修理に関わる業務は技術が求められ、ある意味職人的な仕事ではありますが、関わる周囲の方々の気持ちを考えることが、私は非常に重要だと思っています。

——ほう、周りの人の気持ちですか。

現場では複数人のチームを組んで動いていますから、1人で行うわけではありません。また、時には当社に責任が発生しない部分で不具合が見つかるケースもありますが、非がないからといって、見逃すことはできませんよね。「うちは関係ない」ではなく、後に使う方や関係する業者さんの気持ちや立場も考えながら、できる限りの仕事を手掛けられる会

社でありたいんです。とは言え、私自身の業界経験や年齢など、ベテランの方々と比べるとまだまだですから、大事にすべき点を守りながらも、様々な方のお話を聞く中で勉強を続ける毎日ですね。

——さすが元営業マンだけあって、非常に周囲の方々との関係性を重視されているように感じます。今後についてはいかがですか。

コンテナを利用して新たな取組みをしたいです。ドアをつけるなどの改造ができるので、事務所用やイベント用などに利用可能なんですよ。そうした特殊なコンテナを扱い、お客様のニーズに広く応えたいですね。そして事業基盤がさらに安定したら、異業種にも挑戦してみたいです。

(取材 / 2022年10月)



ゲスト
松尾 伴内

「飯田社長は、『人を喜ばせることが仕事をする上で1番の楽しみ』とおっしゃっていました。どんな仕事でも人と人との関係やつながりが重要です。社長のような姿勢ならますます周囲との信頼を築いていけるでしょうね」



セントラルコーポレーション 株式会社

神奈川県横浜市中区野毛町3丁目160番地4

ちえるる野毛211号室

URL : <https://www.cntral.co.jp>